

平成16年11月29日

中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業における海上工事の実施 について

中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業については、仮設橋梁の延伸に係る工事及び海上工事（汚濁防止幕の展張、石材投入、鋼矢板打設）を今年度に予定しておりました。これに従い、8月より仮設橋梁の延伸に係る工事、10月より海上工事のうち汚濁防止膜の展張をそれぞれ実施してきており、これに引き続き11月30日（火）より護岸等工事が実施予定となりましたのでお知らせします。

【継続して護岸等工事を実施します】

海上工事については、既にお知らせしておりますとおり、台風時期の終了を待って、去る10月22日より実施しております。この工事工程は、まず工事に伴い発生する濁りを工事区域外に拡散させないための汚濁防止膜を展張し、その後護岸等の工事を実施することとしています。この度、予定区域の展張が終了予定となりましたので、引き続き明日30日より、別添-1のとおり護岸等工事として石材投入、鋼矢板打設を実施致します。

工事の実施に当たっては、最大限慎重を期すこととしており、日々のモニタリング結果をフィードバックさせる体制を採っており、環境影響について十分監視しながら実施します。

また、昨年度事業者において確認した貝類ニライカナイゴウナ（新称）及びオサガニヤドリガイについては、事業者の対応策として、工事区域内に生息する個体について可能な限り採取し生息可能な区域に移動することとしておりました。今般の護岸等工事の実施に先立ち、別添-2のとおり工事区域内の個体を採取し、沖合の生息区域に移動しています。

また、泡瀬干潟生物多様性研究会等より報告のありました貝類及び委員会委員 8 人より提出されました意見書への事業者見解も併せてお知らせいたします。

【新種の可能性のある貝類の調査を実施します】

平成 16 年 11 月 19 日に泡瀬干潟生物多様性研究会・泡瀬干潟を守る連絡会より、泡瀬地区における貝類 2 種の発見報告がありました。事業者において確認した情報の詳細は、別添-3 のとおりです。

確認された種のうち、フィリピンハナビラガイについては、すでに文献によって確認が報告されていた種であり、特段、貴重種として位置づけられておりませんでした。また、これまで知られていた分布域を広げるものでもなかったことから、現段階では、仮にこれらの種が事業者において確認されたとしても、特段の対応が必要はないものと判断しました。

一方、ユンタクシジミ（仮称）については、新種の可能性も否定できないことから、現時点で事業者において貴重性の判断が困難なものと判断しました。そのため、当該種の発見が報告されている低潮線付近の海域で、専門家に指導いただきながら確認調査を実施します。なお、当該種は事業者において未確認であること、また調査区域は現在の工事区域と離れていることから、工事を実施しながら調査します。

【委員意見書に対しては、事業者見解に理解を求めていきます】

これまで、事業者としましては、環境影響評価書に規定した環境保全措置等を実践するため、環境監視委員会及び環境保全・創造検討委員会を開催し、指導助言を頂いています。その中で、このような意見表明がなされたことは残念です。これについては、基本的には、以下の事業者の見解について、委員へ説明し、ご理解を頂きたけるよう努めているところです。

〔合同委員会の開催〕二つの委員会は明確に異なる役割があること、また、これらと一緒に 30 名を超える委員において議論することは極めて非効率であります。また、両委員会の委員相互の意見交換の場は積極的に作るべきであると考えております。本年度も現場視察等を兼ねた勉強会は開催される予定です。

〔海草被度調査方法の評価（合同調査）〕合同調査については、事業者が示すデータの信頼性の確保という観点から求められているとするならば、「守る会」が指定する場所を「守る会」の立ち会いの下で潜水調査し、整理の方法も含めその結果を示したので、その役割は果たしたものと理解しているところです。

〔海草移植の評価〕芝植え工法（手植え移植）については、平成 14 年の環境監視・検討委員会において適用性が高いことが確認されております。また、

事業者努力として、海草の生育環境の向上や生育領域の拡大・創造を図るための場の創造を検討しており、移植と併せて海草藻場生態系の保全を目指しています。

[新たに発見された新種等の保全措置] 環境影響評価書の定めに従い、貴重種・重要種が新たに確認された場合には、県環境部局と調整をした上で、県知事より意見を頂くこととしています。これまでの二度の県知事意見は、いずれも事業者の対策（案）を慎重に実施されたいとの内容であり、事業者としては、十分な対応を実施していると考えています。

－以上－

(問い合わせ先)

那覇港湾・空港整備事務所

中城湾港出張所 小早川・名嘉

TEL:098-938-9640

工事概要及び当日のスケジュールについて

1. 施工内容

仮設桟橋：128m (暫定)

基礎捨石 12,377 m^3

被覆石 1,521 m^3

仮設道路：160m (完成)

基礎捨石 3,877 m^3

被覆石 1,606 m^3

ト列護岸：174m (暫定)

基礎捨石 15,022 m^3

被覆石 2,853 m^3

C護岸：190m (暫定)

基礎捨石 16,804 m^3

被覆石 1,333 m^3

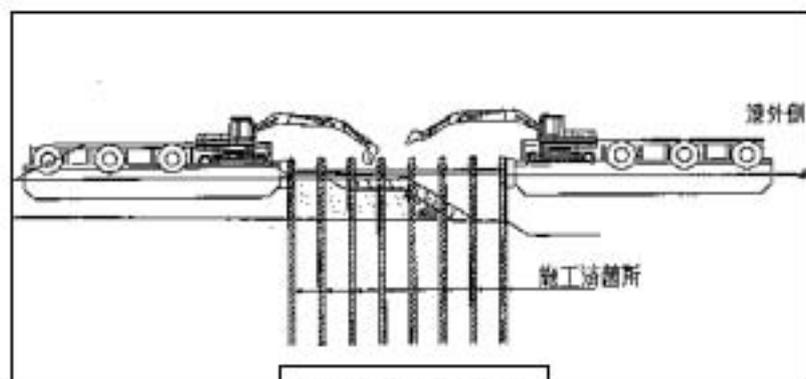
余水吐護岸：199m (暫定)

矢板打設 936 枚

基礎捨石 1,578 m^3

2. 施工方法

仮設桟橋：既設H型鋼杭の間に台船より基礎捨石を投入、基礎捨石マウンドを形成する。



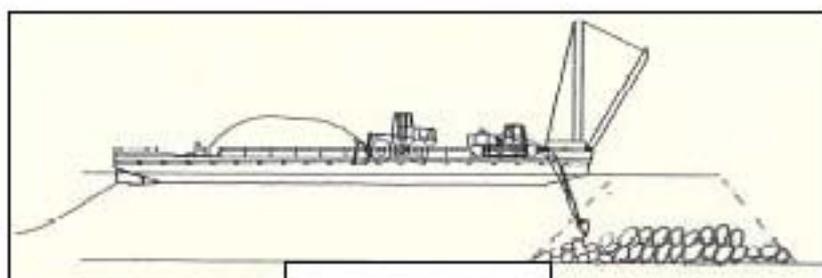
施工方法概略図



現状写真

板設道路及び護岸（ト列護岸、C護岸）

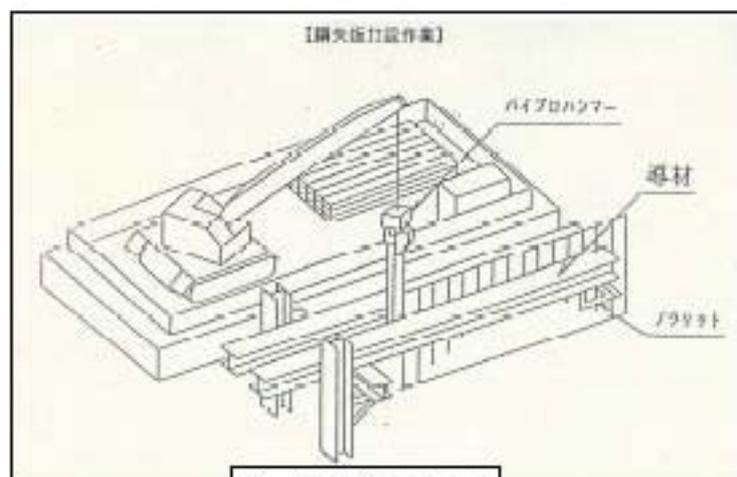
：台船より基礎捨石を投入、基礎捨石のマウンドを形成する。



施工方法概略図



施工状況写



施工方法概略図



施工状況写

護岸（余水吐）：台船上のクレーンにより、鋼矢板を打設後、矢板を取り巻くように基礎捨石マウンドを形成する。

3. 11月30日（予定）の工事スケジュール

7:00

～9:30 物揚場より石材投入船団出港

物揚場より海上工事現場へ移動

9:30

～17:00 石材投入開始（仮設棧橋・トチリ護岸 各 450m³／隻）
鋼矢板打設用導材設置（余水吐護岸）
鋼矢板打設（20枚）

※作業位置図については、別紙参照

4. 工事概要説明及び取材船について

11月30日(予定)、8:30より中城湾港出張所前、工事作業ヤードゲート内の入り口付近において、工事概要説明を行います。

工事概要説明後、物揚場より取材船に乗船頂き海上工事を取材して頂きます。

なお、取材船への乗船は、船の定員の関係上、各社2名までとさせていただきます。

詳細スケジュール、工事概要説明場所及び乗船場所は以下のとおりです。

詳細スケジュール

8:30

～8:45 工事概要説明

物揚場へ移動

8:50

～9:30 取材船に乗船、海上工事現場へ移動

9:30

～10:00 海上工事取材

物揚場へ移動

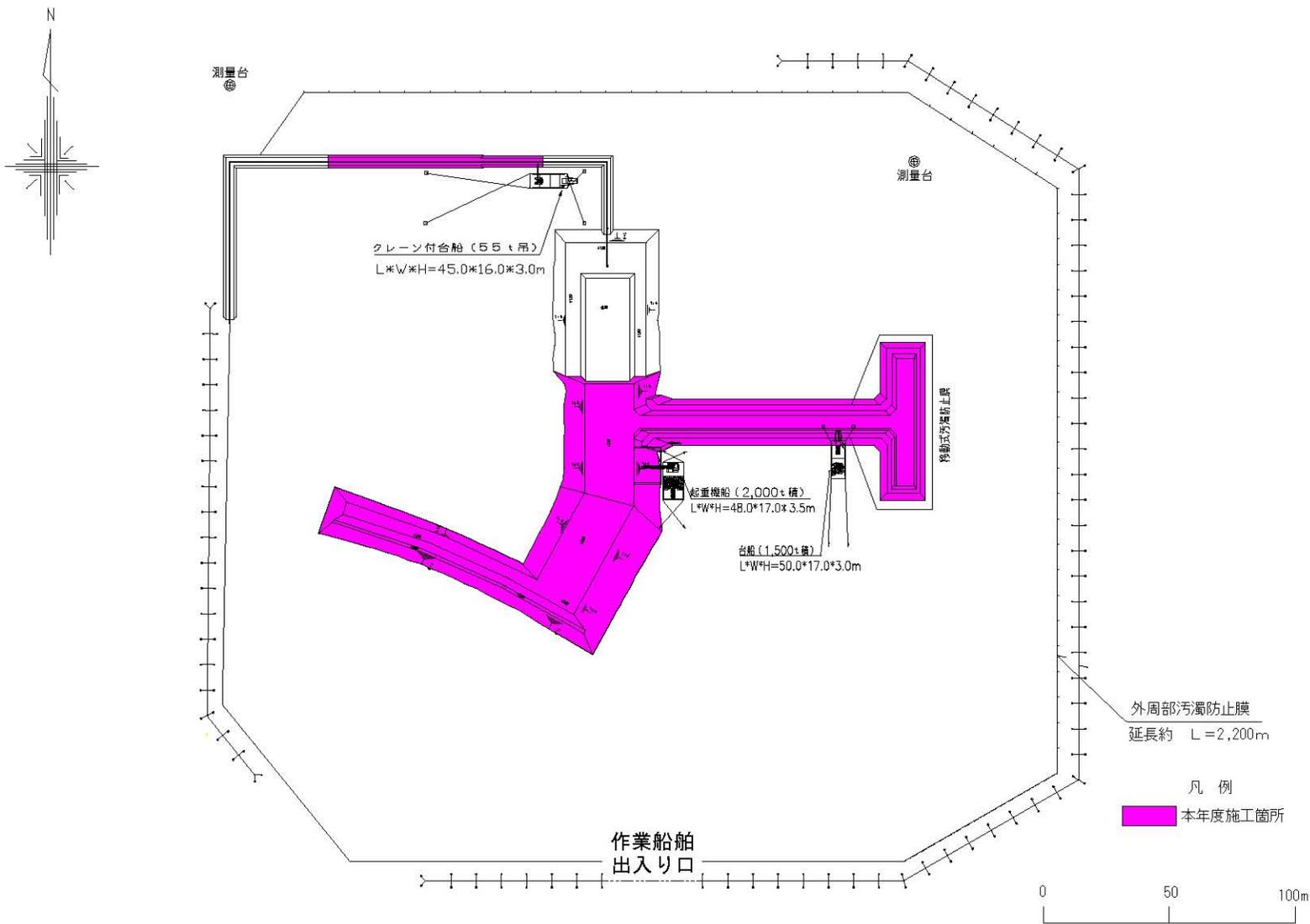
10:40

物揚場到着、下船、解散

工事概要説明場所及び乗船場所



石材投入・矢板打設開始時の船舶配置図 (11月30日)



中城湾港泡瀬地区の海上工事に伴う貝類ニライカナイゴウナ（新称）及びオサガニヤドリガイの移動について

中城湾港泡瀬地区の平成 16 年度海上工事实施に際して、ニライカナイゴウナ（新称）及びオサガニヤドリガイの今年度工事施工区域内からの採取と移動を実施しています。これは「中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業に係る環境影響評価書（平成 12 年 3 月）」に記載されている動植物以外の種の存在等についての沖縄県知事への報告に基づき、本報告の中で示した「工事区域内に生息する個体について、可能な限り採取し生息可能な区域に移動する」対応策として行ったものです。

ニライカナイゴウナ及びオサガニヤドリガイの採取と移動は、今年度の工事区域を対象として平成 16 年 10 月下旬から 11 月下旬にかけて実施しました。

（1）ニライカナイゴウナ

ニライカナイゴウナは工事实施区域内を潜水調査した結果、110 個体を採取し、継続的に生息が確認されている工事施工区域の南側に位置する監視調査点 St.6 付近の砂底に放流しました。放流にあたっては、ニライカナイゴウナが付着したままのソメワケグリガイ等の二枚貝類が自力で砂底中に潜行するのを確認しています。

（2）オサガニヤドリガイ

オサガニヤドリガイも同様に工事实施区域内を調査した結果、386 個体を採取し、継続的に生息が確認されている監視調査点 St.2 付近の砂底に、宿主のメナガオサガニとともに放流しました。放流したメナガオサガニは自力で海草や礫等に隠れるのを確認しています。

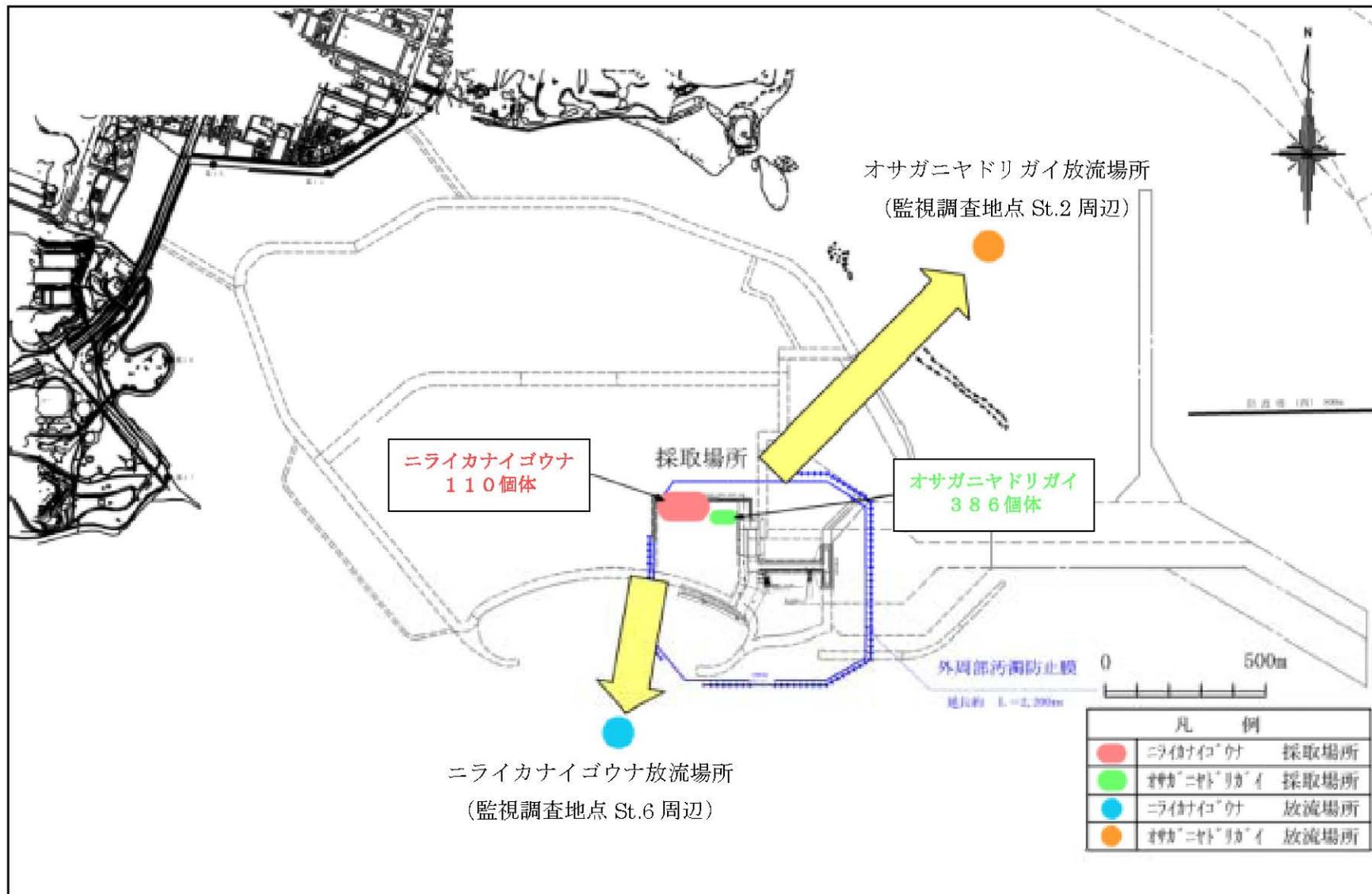


図-1 採取場所と移植場所

新たに確認報告のあった貝類2種について

● 平成16年11月19日に発見の報告があった貝類について

1. フィリピンハナビラガイ *Fronsella philippinensis* Habe & Kanazawa, 1981
 - ・ スジホシムシ（星口動物）に着生する小型の二枚貝（マルスダレガイ目ブンブクヤドリガイ科）、大きさ：殻長10mm、殻高8mm程度
 - ・ 泡瀬地区の低潮線付近で、山下氏により2004年7月31日に発見されたと報告がなされた
 - ・ 最初の発見は、フィリピン マクタン島（波部・金沢 1981 Venus.40(3);123-125)
 - ・ 日本では、沖縄県本部町浜元、沖縄市泡瀬、石垣島名蔵湾の3カ所で記録されており、いずれも干潟の低潮線付近で発見されている（小菅・久保 2002. ちりぼたん 33,Nos.1-4)
 - ・ 八重山諸島近海で水揚げされたイソフエフキ（フエフキダイ科）の消化管内内容物としてホシムシ類の破片とともに記録確認がある（小菅・木曾 2003.南紀生物 45(2);92-93)

2. ユンタクシジミ（仮称） *Pseudopythina* sp.
 - ・ スジホシムシに着生する小型の二枚貝、大きさ：殻長4mm、殻高2.5mm
 - ・ 泡瀬地区の低潮線付近で、山下氏により2004年7月31日に発見されたと報告がなされた
 - ・ 石垣島で確認された未記載種（小菅・久保 2002）との関係は不明

(参考) スジホシムシに着生するその他の貝類について

1. ハナビラガイ *Fronsella ohshimai* Habe, 1958
 - ・ スジホシムシに着生する小型の二枚貝、大きさ：殻長9mm、殻高6mm程度、九州以北の温帯日本に分布（小菅、久保 2002）
2. スジホシムシヤドリガイ *Nipponomysella subtruncata* (Yokohama, 1922)
 - ・ スジホシムシに着生する小型の二枚貝、大きさ：殻長3.6mm、殻高2.7mm、紀伊半島から九州にかけて潮間帯の砂泥底のスジホシムシに着生（奥谷 2000）
 - ・ スジホシムシモドキに着生する貝として整理されることもある（小菅、久保 2002）
3. 未記載種
 - ・ 石垣島においてスジホシムシに着生する未詳の二枚貝が確認されている（小菅、久保 2002）
4. *Pseudopythina (Borniopsis) nodosa* Morton&Scott,1989
 - ・ 香港で発見された、スジホシムシに着生する二枚貝の一種であり、本種は香港以外から知られていない（小菅、久保 2002）